

熊本県立松橋西支援学校(高等部上益城分教室) 令和6年度(2024年度)学校評価表

1 学校教育目標

心豊かでたくましい児童生徒の育成

○ 心豊かであるということ

- ・優しく思いやりがあり、自然や周囲の人を大切にことができる。
- ・自分の好きなことを見つけ、感性豊かに感じ取ったり表現したりできる。
- ・友達や教師と積極的にかかわり、気持ちを重ね合わせながら活動できる。

○ たくましいということ

- ・自ら健康に気をつけ、体力を高めながら元気に毎日を過ごすことができる。
- ・困難を感じても、自己肯定感を元に挑戦する意欲を持つことができる。
- ・自らの生活に目標を持って、積極果敢に取り組むことができる。

2 本年度の重点目標

○ より良い授業

- ・育てたい資質・能力を踏まえた年間指導計画の充実(教務部)
- ・性に関する教育の検討・充実(保健体育部)
- ・児童生徒会活動の充実と、他校や地域社会との交流の推進(生徒指導部)
- ・児童生徒の自立と社会参加を目指すキャリア教育の推進(進路指導部)

○ より良い教師

- ・教科別の指導における授業作りの検討及び共有(研究部)
- ・児童・生徒のニーズに応じたICT機器活用の推進(情報教育部)

○ より良い学校

- ・校内外の行事(文化芸術鑑賞)・諸活動を見渡した円滑な業務の遂行と、他校との連絡調整(総務部)
- ・環境保全活動の推進及び防災意識の高揚と防災対応能力の向上(環境安全部)
- ・一人一人に寄り添う教育的支援を行うための校内支援の充実(教育支援部)

3 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	時間外勤務時間の縮減を目指した業務改善の実施	・時間外勤務縮減を目標とした計画的な業務の遂行	・学部主事、分掌部長を中心とし、各分掌部の業務の見直しと精選を行う。 ・月45時間以上の時間外勤務者の割合を前年比10%縮減する。	・家庭訪問、個別面談時の短縮日課期間を十分に設定し、職員の業務時間の確保を行う。 ・毎月の衛生委員会時に職員の勤務実態を把握するとともに、該当する職員には積極的な声かけと面談等を実施する。	A	・分教室内の分掌部等の業務について、担当から提案したもの分教室職員全員で検討する機会を増やした。担当のみでの業務を抱え込む意識が減り、分教室全体の意見として取り組むことによって職員の負担感軽減につながることができた。 ・昨年度と比べ、分教室内の時間外勤務の平均時間が約16%減少することができた。また、45時間以上の時間外勤務職員は今年度0人だったので、職員全体の業務バランスを十分に把握し、適宜職員への声かけ等を今後も継続して行う必要がある。
授業の充実	育てたい資質能力を踏まえた年間指導計画の充実	・各教科等の年間指導計画への反映	・年間指導計画を学期ごとに確認していく。	・生徒の実態に応じた学習内容を検討し、共有する。 ・長期休業日等を利用して年間指導計画の見直しを行う。	B	・生徒の実態に応じたグループ分けや学習内容を検討し、概ね計画的な授業実践に取り組むことができた。 ・次年度の生徒の実態を考慮し、教育課程を夏季休業中に学部内で検討したこと、年間指導計画の見直しを図ることができた。
	性に関する教育の検討・充実	・相手との距離感やプライベートゾーンの指導、意識向上に関する取り組み	・性に関する教育の各学部の取り組みや課題の把握を行う。 ・生徒が取り組みやすくなるような教材を準備する。 ・職員、保護者を対象とした講師	・生徒が取り組みやすくなるような教材を準備する。 ・職員、保護者を対象とした講師	A	・研修会の保護者参加はなかったが、懇談会時に性器いじり等について研修内容を保護者に直接お伝えすることができた。 ・距離感についてのプレゼンテーション、絵カード等の教材を作成

		組みの検討	みやすい相手との距離感等の指導を行う。	招聘研修会(性に関する講演会)を実施する。		した。相手との距離感についての授業の際に活用した。
	個に応じた指導の充実につながる実態把握をする力や授業実践力の向上	・自立活動の視点を生かした教科別の指導の充実	・授業検討会を分教室及び縦割り班で行う。年度の最後にポスターセッションによる実践報告会を実施する。	・体育の授業について意見交換型の分教室研を行う。	B	・生徒の実態等を踏まえて、授業内容の検討や意見交換を全員で行うことができた。 ・学部研で意見交換をした内容を他学部の教師と意見交換する時間を設けたことで、授業の幅やアドバイスを交換する時間を確保することができた。
	児童・生徒の情報や機器の扱い方についての情報モラル教育の推進	・教師の情報モラル教育の理解と授業や生活場面での実践	・本校で課題を把握し、正しい知識や指導方法を学んだ上で、授業などで実践できるようにする。	・職員アンケートを実施し、出た課題についてまとめ、課題解決のための校内研修を実施し、理解を深める。	B	・授業の中で、情報機器を使い、教科毎に調べ学習を行うことができた。情報モラルについてもSNSの使い方や注意事項などについても学習を行った。 ・今年度は、前年度の反省で挙げられた「家庭での情報機器の使い方、ルールの作り方」の研修を保護者や教師向けに実施することができた。
キャリア教育(進路指導)	児童生徒の自立と社会参加を目指すキャリア教育の推進	・関係機関と連携した進路指導の充実	・生徒のニーズに合った福祉事業所や、一般就労につながる現場実習先を提供する。 ・キャリア発達を促す進路学習の実践を系統的に行う。	・進路指導主事と連携し生徒のニーズに応じた事業所や企業を中心に訪問を行う。 ・「職業」を中心とした授業や、キャリアアップワーク等の体験をとおしてキャリア教育の充実を図る。	A	・進路指導主事と連携し、生徒・保護者のニーズに応じた事業所を訪問し、実習や就労に繋がる現場実習先を提供することができた。 ・「職業」の授業や実習等の体験をとおして社会人としての基礎を学ぶ学習を系統的に行うことができた。また、キャリアアップワークでは重点項目を設けて啓発活動等を行うことにより、将来必要な力の意識付けを行うことができた。
生徒(生活)指導	児童生徒会活動の充実と、他校や地域社会との交流の推進	・生徒会活動の確立 ・甲佐高校との交流及び共同学習の充実	・生徒が協力しながら行事等の運営に関わる態度の育成を図る。 ・様々な交流を通してともに仲間としての意識や経験の拡大を図る。	・生徒会役員による定期的な話し合いを実施し、集会等の内容を検討する。 ・学年通信や連絡帳を通じて活動の様子を伝える。	A	・交通安全教室や心のきずなを深める集会など役割を分担しながら取り組むことができた。 ・体育大会や青垣祭(文化祭)など、甲佐高校の生徒会役員と打ち合わせや発表の練習を行う中で交流することができた。
人権教育の推進	命を大切にする心を育む指導の実践	・職員研修と人権学習の充実	・職員研修、人権学習を計画的に実施し、人権感覚を高める。 ・年間指導計画をもとに各学年で人権学習を実施する。	・行動目標を全職員が意識できるよう、定期的に分教室会や朝会で呼びかけ、確認する時間を設ける。 ・人権に関する職員研修を年5回行い、人権学習の充実につなげる。 ・甲佐町学校人権教育部会に継続して参加し、地域への	B	・人権学習年間指導計画に基づいて人権学習を実施し、教師自身の人権感覚を振り返ったり、分教室会や朝会で生徒や保護者に関しての支援方法等の意見交換を行ったりすることを通して人権意識を高めることができた。 ・甲佐町学校人権主任会や甲佐町・上益城郡の人権課題別研修に参加し、分科会で地域の小中学校の先生方と意見交換を行った。また、町の人権月間の取り組みとして、人権標語を提出了した。

				理解と啓発につなげる。	
いじめの防止等	いじめの未然防止・早期発見・対策等における取組の充実	・いじめ防止の取り組みの情報発信	・職員研修を行い、いじめの防止や早期発見に向けての実践を行う。 ・生徒に対する指導内容や様子を保護者に伝える。	・気になる生徒の様子を日常的に職員間で共通理解を図り、共通実践につなげる。 ・いじめ防止に向けての取組を学年通信や連絡帳で保護者に伝える。	B ・気になっている生徒の様子などを朝会や学部会で報告し、職員間で共通理解を図ることができた。また、どのように対応すればいいか等お互いに意見を出し合って実践することができた。 ・保護者への連絡は送迎時や電話連絡などを通して速やかに行うことができた。また、必要に応じて家庭訪問を行い、様子等を丁寧に伝えることができた。
地域支援	地域における支援体制の充実	・教育相談及び近隣の地域への対応	・進路に関する相談を含む教育相談等に適切に対応する。	・近隣の学校からの相談においては、相談者が進路選択の参考となるような情報を提供する。	A ・昨年度以上に多くの教育相談があつたが、1件ずつ相談者の進路に関する悩みや思い等も聞きながら丁寧に対応を行つた。 ・進路選択の参考にしてもらうよう、本校のみの情報だけでなく、県全体の状況等も伝えることを心がけた。 ・中学校の特別支援学級全体での学校見学会も数回実施し、早い段階からの進路選択の参考となるような情報提供もすることができた。
	人権教育の視点で、よりよい教育的支援を行うための校内支援体制の検討	・生徒理解や教員間の連携を深めるための共通理解の場の設定	・生徒や保護者の思いや背景に重点を置いた情報共有の場を設ける。	・分教室会や朝会に限らず、必要に応じて日々の生徒の様子や支援についての情報共有を日頃から職員間で行うようとする。 ・定期的にケース会議を設定し、支援・指導の方法を協議し、その後の経過等も分教室会や朝会にて共通理解できるようとする。	A ・必要に応じて生徒や家庭に関する情報共有を日頃から行うことができた。また、担任だけではなく、職員全員で考えて意見交換を行うことで、様々な視点から支援・指導を考えることができた。 ・定期的にケース会議を設定し、指導、支援の方法を協議し、その後の経過も分教室会や朝会で共通理解することができた。 ・今年度は職員間で情報共有をこまめに行つたことで、生徒1人1人に対して、卒業後の進路も含めた上で、今必要な指導、支援は何かを考えることができていたので、次年度も継続して行うことが大切と感じた。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	学校運営協議会(総合型)における協力体制の強化	・甲佐高校をはじめ、地域と連携した学校の活性化	・甲佐高校との連携充実並びに児童生徒の健全育成を図る。	・学校運営協議会時に、甲佐高校との合同での行事等を積極的に発信する。	A ・体育大会、青垣祭(文化祭)等の行事だけでなく、日頃の学校や生徒の様子等についての意見交換を昨年度以上に行つた。甲佐高校、分教室共に特別支援教育への意識の高まりにつなげることができた。 ・学校運営協議会時に、甲佐高校との取組を発信することもできた。
	環境保全活動の推進及び防災意識の高揚と防災対応能力の向上	・教室や校舎周辺、地域の環境美化活動の実施 ・甲佐高校、地域との連携による防災意識	・掃除の時間における継続的な指導や甲佐高校との校舎周辺、地域の環境美化活動を推進する。 ・甲佐高校、学校	・生徒、職員全員で甲佐高校と協力して、清掃活動に取り組む。 ・防災マニュアルの共通理解を図り、実際に避難経路を確認する。	B ・甲佐高校との美化活動は、青垣祭などのイベント前に取り組むことができたが、取り組みの回数としては少なかつたように思う。 ・災害時の避難に関する共通理解や避難経路の確認、情報共有や意見交換をすることができた。

		の向上と災害時対応の構築	近隣地区の合同避難訓練を行い、連絡体制や避難の仕方を確認する。	・関係者と情報共有を図りながら、対応について意見交換する	
--	--	--------------	---------------------------------	------------------------------	--

4 学校関係者評価

- ・分教室は、今年度生徒数が9人で、これまでで最も少ない人数ではあったが、少人数だからこそできる一人ひとりに合わせた丁寧な指導や支援を行うことができている。合わせて、それぞれの生徒について職員全体で情報共有や検討を行う体制を整えたことで、職員にとっても全員で生徒の指導や支援を行うといった安心感にもつながっている。
- ・甲佐高校との関係も良好で、体育大会、青垣祭(文化祭)の行事だけでなく、合同避難訓練、清掃活動等も自然な形で行うことができている。また、今年度は甲佐高校の職員研修で特別支援教育についての研修を行い、その中に分教室職員から分教室についての説明を行ったり、協議と一緒に参加したりして、特別支援教育への意識をお互いに高めていくことができた。
- ・分教室だからこそできる、少人数での指導や甲佐高校との連携は今後も重点的に取り組んでいきたいと考えている。

5 総合評価

- ・分教室は、少人数でのメリットを生かしつつ、甲佐高校との連携も十分に図ることができている。
- ・また、生徒の支援や教育課程、学校研究等について、全体で十分に検討を行うことができており、そのことが職員の安心感や自信、専門性の向上にもつながっていくのではないかと考えられる。
- ・分教室は場所が離れているので、本校高等部との交流や連携をさらに行っていくことで、生徒間でも同じ学校で学ぶ仲間としての意識も高まってさらに学校の一体感にもつながっていくのではないかと考えられる。

6 次年度への課題・改善方策

- ・甲佐高校との連携は十分にできているので、さらに職員研修等や情報共有の機会を設定するなどして、甲佐高校と分教室の相互理解と特別支援教育に関する専門性の向上につなげていく。
- ・分教室の情報を本校にも積極的に発信する。
- ・本校高等部と分教室の交流の充実を図り、同じ学校で学ぶ仲間としての意識を高めていく。